

3 安定的な取引づくり

取引先とのパートナーシップ強化

◆バリューチェーンパートナー設置

みやざきブランドの価値を共有するバリューチェーンパートナーとして10取引先を設定。トップ会談や特長ある商品の取り扱い増加、加工品を含めた総合品目販売を展開し、パートナーシップを強化していきます。



冷凍野菜の試食宣伝を開始

企業コラボ

◆カゴメ(株)との連携

●プロモーション

令和元年8月の1ヶ月間、JR九州ホテル宮崎で県産野菜(ゴーヤー他)とカゴメのコラボ朝食を提供



●商品化



令和元年7月から全国販売「KAGOME野菜生活100 日向夏ミックス」

完熟マンゴー「太陽のタマゴ」

◆贈答需要の強化

「太陽のタマゴ」化粧箱のリニューアル(全JA統一デザイン)や、新しく作った完熟マンゴーのパック用スリーブで、贈答需要の拡大に取り組みました。



「太陽のタマゴ」化粧箱

完熟マンゴー スリーブ



宮崎空港ご担当者様
「完熟マンゴーパックを贈答需要として販売できるようになり、お客様からも好評です。」

←宮崎空港おみやげ売り場

安倍総理 表敬訪問

宮崎牛、完熟マンゴーの生産者代表が安倍総理を表敬訪問し、TVや新聞で報道されました。

◆「宮崎牛」表敬(平成31年4月11日)



◆「太陽のタマゴ」表敬(令和元年5月24日)



みやざきブランド『かわら版』

No.2
2019年
12月号

みやざきブランド推進本部(宮崎県・JA宮崎経済連)

みやざきブランド産地の動きや産地・品目の取り組みを広くご紹介するみやざきブランド『かわら版』。

今回は、導入が進むGAPやスマート農業の取り組み、ニラ品目別戦略、完熟マンゴーの安定取引に向けた取り組みなどをご紹介します!

信頼される産地づくり

特長ある商品づくり

安定的な取引づくり

ブランド戦略

令和元年度前期トピックス

1 信頼される産地づくり

◆品目別戦略の取り組み

品目別に生産から販売まで一体となった戦略をたて、関係機関・団体が連携して課題解決に向け取り組んでいます。ニラでは、腐敗防止による品質向上対策を実践しています。

◎ニラ品質向上対策

H30年度 対策

- ◆腐敗防止啓発ポスターの作成
- ◆輸送中の温度調査
- ◆留め置き検査による品質確認
- ◆鮮度保持包材の効果検証

ニラ事故率(前年比)49%減少

R元年度 計画

- ◆品質管理チェックシートの作成。ポスターと併用し、品質向上対策を強化
- ◆輸送中の温度調査
- ◆株養成、深耕技術の検討



ニラ腐敗防止啓発ポスター

◆スマート農業の取り組み

◎加工業務向けほうれんそう等 スマート農業実証コンソーシアム

加工業務向け露地野菜における機械化・分業化の普及を目指し、一貫体系モデルの実証を進めています。

◆環境センサーやドローンの活用



・土壌環境の見える化(地温・EC・pH・含水率)



・生育状況モニタリング
・空撮画像のAI分析(出荷予測等)
・ドローンによる施肥等

勘と経験 × データ
⇒適期作業による生産性(収量・作業効率)向上

◆ロボトラの導入実証



無人化による耕耘作業省力化(ほ場準備時間 30%削減)

ロボトラ(無人化)+平行して別作業
⇒労働時間・人件費の削減、作業の効率化

2 GAPの取り組み

◎GAPに基づく農業経営の実践

GAPは、食品安全、労働安全、環境保全等に関する基本作業の徹底と改善の繰り返しです。

「GAPをする」は経営改善や、経営を守ることに繋がります。そして、次のステップとなる「GAP認証の取得」は、第三者の目が入ることにより活動が徹底されるとともに、実需者の信頼確保につながります。

GAP認証の取得は全国各地で進んでいます。

表1 全国のGAP認証取得経営体数

	GAP認証 (グローバルG.A.P. ASIAGAP、JGAP)	都道府県GAP認証 (ひなたGAP等の県版GAP) (畜産GAP取得チャレンジシステム)
農産物	6,572	14,572
畜産物	120	53

出展:農林水産省HP 都道府県におけるGPA取り組み状況
(令和元年10月末時点速報値)

GAPポスター・GAPチェックシート



GAPポスターでいつも確認。
5S活動を実践しましょう!

県版ひなたGAPの項目にあわせて更新しました(R元年10月)

GAP認証に向けた13JAモデル産地の取り組み

県内13JAの産地では、令和元年度にGAP認証の取得を目標としたGAPモデル産地を設定しました。各産地では、グローバルG.A.P.や県ひなたGAP等の団体認証を目指して、活動が始まっています。

●JA宮崎中央ニラ部会・JAはまゆうピーマン部会(串間支部 他) JAえびの市ピーマン部会・JA尾鈴ミニトマト栽培グループ

4JAの部会では、令和2年のグローバルG.A.P.認証の取得を目指し、倉庫や作業場の整理を実施中です。



Before

After

JA尾鈴ミニトマト栽培グループ 斉藤 嘉貴 会長



最初に荷物を全て出し、「1年以上使っていない物や判断に迷う物は捨てる」を合言葉に整理しました。おかげで、気持ち良く仕事ができます。
グローバルG.A.P.認証の取得に向けて頑張ります!



荷物を運び出し、要・不要を分ける
「ものはとことん捨てる!」



仕分け

GAP視点で再配置

◆GAPモデル産地研修会

令和元年8月27日に、生産者、関係機関 計58名が参加するモデル産地研修会を開催。ひなたGAP団体認証第1号のJAこばやしマンゴー部会GAP研究会のほ場や選果場を視察し、意見を交換しました。

JAこばやしマンゴー部会GAP研究会 松田 泰一 代表



GAPは無駄を無くすことによる所得の向上や安全・安心の確保だけでなく、マニュアル化による生産技術の継承にもつながるものだと思います。
今年は部会員が追加で認証を受ける予定です。



選果場を視察し質問をする参加者

選果場



資材は床に直置きしない



フルーツキャップの輪ゴムを予め除いて異物混入防止

ほ場・作業場



落下危険箇所の注意表示



ほ場等のリスクを写真地図と併せて表示

●JA串間市大束 亜熱帯果樹部会

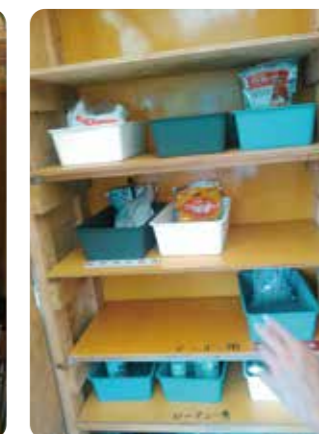


部会でGAPの知識を深めながら、ひなたGAP認証の取得を目指しています。

●JA西都ピーマン部会 減農薬グループ



グループ18名全員でのひなたGAP認証の取得を目指し、取り組みを進めています。



農薬は鍵のかかる保管庫に。粉剤は上に液剤は下にして、トレーを設置。GAP5Sポスターも活用!

畜産GAPの取り組み

指導員育成のための研修会を開催し、畜産GAPの普及・推進体制の強化を図っています。



畜産GAP指導員研修会